

## 札幌市立もみじ台南中学校の取組

### 1 道徳科の指導について

#### ・授業づくりのポイント

- (1) ねらいとする道徳的価値（内容項目）について、学習指導要領解説に基づき、しっかり理解する。
- (2) 読み物教材（教科書）を読み込み、生徒が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習になるように授業を構想する。

#### ・ワークシートの工夫

- (1) どの教材でも生徒が同じように書けるように、枠と共通の質問項目だけのワークシートを使っている。・・・別紙1
- (2) 年2回、振り返りの授業を行っており、ワークシートは全学年共通書式のものを用いている。・・・別紙2

#### ・展開の工夫

- (1) 読み物教材において、教師の範読を聞いてワークシートの質問に回答するという展開ではなく、「心情円」「心情線」「小グループでの話合い」「個人や小グループの考えをホワイトボードに書いて掲示する」など、自他の意見が交流できるように工夫している。
- (2) 教材の内容を、「ロールプレイ」「〇〇の立場になって意見を発表する」など、自分事としてとらえるような工夫をしている。

#### ・学習指導における配慮事項

- (1) 意見を言いやすい雰囲気作りを行っている。
- (2) 生徒の意見に対して、「なるほど」と受容的姿勢を示しつつ、肯定も否定もしないようにしている。
- (3) 授業の中では、教員が一方向的な価値を押しつけることがないようにしている。ただし、ワークシート記入後や学級・学年便りなどで教員の意見を紹介する場面を設けることもある。

## 2 道徳科の評価について

### ・評価の工夫と留意点

- (1) 校内研修会で検討し、道徳科の評価の在り方についてまとめたものが次の資料である。(校内研修会で提示した資料)

令和元年度（2019年度）「特別の教科 道徳」の評価について

#### 1 道徳科の評価の考え方

【教育課程編成の手引き（特別の教科 道徳） p.76～】

- ① 「道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲および態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない」
- ② 「学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められる」
- ③ 「道徳科で養う道徳性は個人の問題に関わるものなので、基準を設けることはしない」
- ④ 「生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指す」
- ⑤ 「評価にあたっては、個人内の成長の過程を重視すべき」
- ⑥ 「道徳性の諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは、生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては妥当ではない」
- ⑦ 「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」
- ⑧ 「生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと」
- ⑨ 「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」
- ⑩ 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」
- ⑪ 「生徒が「自己を見つめ」「広い視野から多面的・多角的に」考える学習活動において「道徳的諸価値の理解」と「人間としての生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく」
- ⑫ 「こうした学習における一人一人の生徒の姿を把握していくことが生徒の学習活動に着目した評価を行うことになる」
- ⑬ 「生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」

どうかという点については、例えば、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしていることや、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること、複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしていることを発言や感想文、質問紙の記述等から見取るという方法が考えられる」

- ⑭「道徳的諸価値の理解を自分自身の関わりの中で深めているかどうかという点についても、例えば読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目したり、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりするという視点も考えられる」
- ⑮「道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているかや、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられる」
- ⑯「発言が多くない生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な生徒が、教師や他の生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目するというのも重要である」
- ⑰「当初は感想文や質問用紙に、感想をそのまま書いただけであった生徒が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになっていたりすることや、既習の内容と関連付けて考えている場面に着目するなど、1単位時間の授業だけでなく、生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もある」

## 2 具体的なこと

- ①通知表には教材名で、文体は「です・ます」の表記を、指導要録には内容項目で文体は「だ・である」とする。(総合的な学習の時間に準ずる)
- ②文字数は100字程度とする。
- ③具体的なエピソードがあるとよい。
- ④多面的・多角的に考えたことを1文、または、自分事として深く考えたことを1文とする。
- ⑤ 通知表に評価を記載するのは2学期末の1回とする。

### 3 評価に向けて

- ① 振り返りの道德の授業を行う。(振り返り用ワークシート有)
- ② ワークシート等、生徒に返却し、生徒がファイリングを行う。(ポートフォリオの完成)
- ③ まとめのワークシートを基本に、各回のワークシートを見返しながら、以下の記述を探す。(1-⑬⑭⑮⑰に対応)
  - (ア) 本時の目標に対して、多面的・多角的に考えたことが表出している文
  - (イ) 本時の道德的な主人公の気持ちを、自分ごととして深く考えたことが表出している文
  - (ウ) その他
- ④ これらの記述が見られない場合は、授業中の生徒の様子の見取りをメモしたものから、多面的・多角的に考えた様子、自分ごととして深く考えた様子を探す。(1-⑱)
- ⑤ 生徒の記述や言動に上記のようなものが現れていないようならば、現れるように(生徒がそのような観点で道德の授業を受け、考えることができるように)自らの授業を改善していく
- ⑥ 不適切な表現
  - (ア) (道德性を)理解することができた。(思いやりの大切さを理解することができた)⇒道德性を養うことが目的だが、評価しない。(1-①)
  - (イ) (道德的判断力、心情、実践意欲と関心が)高まった。(例:挨拶しようとする意欲が高まった)⇒道德的判断力、心情、実践意欲と関心を育てることが目的だが、評価しない。(1-①)

### (2) 評価文を作成する上での工夫

次のようなひな形の例を示し、各生徒に応じた文章にすることを基本とした。

- ① 「A 教材名」の学習では、「B 授業での活動内容」を通して、多面的・多角的に考えることができました。
- ② 「A 教材名」の学習では、「C 教材の内容に関わること」について自分事として捉え、「D 自分の内面的なこと (例 他者の気持ちを受け止めながら)」多面的・多角的に考えることができました。
- ③ 「A 教材名」の学習では、〇〇を自分に置き換えて考えることで、「C 教材の内容に関わること」に気付くことができました。

・校内で共通理解を図るための手だて

- (1) 平成 30 年度、札幌市教育委員会から講師を派遣してもらい、「道徳科」に関する研修会を実施した。
- (2) 平成 30 年度末の校内研修会において、道徳科の実際の評価事例について交流を行った。学級担任が、一年間の授業を通して生徒一人一人の評価を記述し、全校生徒の評価の状況や記述内容を全教員で確認することで、次年度の評価へ向けた方向性や記述の基本的な考え方を共通理解した。
- (3) 令和元年度、年度当初の校内研修会において、「道徳科の評価」について再確認した。
- (4) 令和元年度の道徳科の評価について決まった内容は次の通りである。

① 家庭に通知する時期は、2 学期末の 1 回とする。

1、2 学期末には期末懇談を実施することと、教員の働き方改革を視野に入れ、学級担任が家庭向けの所見を記述する時期・内容を整理することで、負担軽減を図る。

- ・ 1 学期末… 5 教科の評定
- ・ 前期末 … 4 教科の評定（5 教科は 1 学期のものを再掲）、学校から
- ・ 2 学期末… 5 教科の評定（4 教科は前期のものを再掲）、道徳科の評価
- ・ 学年末 … 9 教科の評定、学校から、総合的な学習の時間の評価、行動の記録

② 評価の文章は、100 字以内とする。

- (5) 令和元年度は、道徳科の評価を 2 学期末に家庭に通知した。そして、その記載内容一覧をデータ化し、次年度に向けて閲覧できる状態にしている。
- (6) 次年度以降も年度当初に道徳に関する研修会を設定し、異動があっても本校の道徳科の授業の進め方、道徳科の評価の共通理解を図る場面を設ける。

道徳ワークシート

( 年 月 日)

		名前	年 組 番
①			
②			
③			
④			
<p>——☆授業を受けて、思ったことや考えたことを書いてみよう☆——</p>			

道徳ワークシート

( 年 月 日)

自分の学びを振り返ろう	名前	年 組 番
-------------	----	-------

- ① 前期の自分の感想を読み返して、○あらためて深く考えたところ、☆新しい考えや発見があったところ、◇友人の意見で考えさせられたところ、※これから頑張りたいと思ったところ、を見つけて、記号を付けて箇条書きで抜き出しましょう。(言葉を短くしても良いです)

--

- ② 前期に読んだ教材の中で、心に残ったものは何ですか。また、どのようなことが心に残っていますか？

教材名	
その理由	

- ③ 前期の道徳を振り返り、自分の考えが変わったなど感じる事、心が成長したなど感じる事、変わり始めたなど感じることを書きましょう。

--